

ふるさと考古歴史館 春季企画展

～鹿児島市内遺跡の発掘調査成果展 2025～

Bronze

緑^あ

青^お

吹^ふ

く

ア
カ
ガ
ネ

Iron

暗^あ

赤^か

錆^さ

ぶ

ク
ロ
ガ
ネ

関連イベント ※無料・申込み不要

- ① 展示説明会…企画展を解説します。
日時:3/20(木・祝) 13:30から30分ほど。
- ② 企画展Q&A…学芸員が展示室に常駐し質問に答えます。
日時:3/23(日)、4/20(日)、5/18(日)、6/15(日)
※全て13:30から16:00の間。

2025.3.20 (木祝) ▶ 6.15 (日)

[開館時間] 午前9時～午後5時 [休館日] 月曜日(休日の場合は翌平日)

[観覧料] 無料(ただし、常設展示は、小・中学生150円、高校生以上300円)

暗赤錆ぶ

クロガネ、

アカガネ、
緑青吹く

圭頭鏃(不動寺遺跡)



破鏡(不動寺遺跡)



人の叡智と“かね”の欠片は、 時代超え、色変え、でもなお“かたし”

日本では古来より、主となる金属を「色」に例えて表現してきました。すなわち、黒=鉄：くろがね、赤=銅：あかがね、青=錫/鉛：あおがね、白=銀：しろがね、黄=金：こがね、の五種類で「五色の金」と呼んだのです。これらは様々な道具（武器、農具、工具等）、装飾品、工芸品、建材に利用されたため、遺跡の発掘調査でも金属器として発見されます。しかし、腐食しやすいという素材の特性をもち、出土前後の環境の影響を多分に受けることから“繊細な出土品”と位置づけられています。

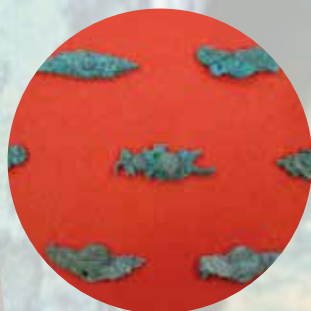
今回の春季企画展では、市内遺跡から出土した金属製品、特に出土率が高い鉄と銅（青銅）を素材とした製品を取り上げます。鉄・青銅製品の集成展示のほか、金属器生産に関連する遺跡の発掘調査成果や、世界遺産登録10周年を目前に控えた集成館事業関連遺跡群における金属器生産の痕跡を紹介します。



輪羽口(惣福前田遺跡)



羽口が装着された炉跡(惣福前田遺跡)



目貫金具(北麓遺跡)



青銅製丸鞆(墓下遺跡)

“かなもの”を産んだ遺跡の変遷

本年3月に調査報告書が刊行される惣福前田遺跡（上福元町）を始め、古代から近代（9～19世紀）の金属器生産に関連する遺構・遺物が発見された鹿児島市内遺跡の発掘調査成果を紹介。

祝・世界遺産登録10周年前夜！

磯に響く“かね”の音が告げた日本の近代化

2015年7月5日に世界文化遺産登録10周年を迎える磯地区の旧集成館及び周辺遺跡（「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」）の金属器生産の痕跡を紹介。

市内出土の鉄製品～暗赤錆ぶクロガネ～

青銅製品～緑青吹くアカガネ～

鹿児島市内の発掘調査で出土した鉄製品と青銅製品を一堂に展示し、それぞれの用途や遺跡の性格との相関性について紹介。

